

International Medical Tour in Myanmar



Day

3

Time Schedule

10:00 パンライン国際病院
14:00 昼食
15:30 ビトリア病院訪問
(Leo Medicare)

2日目の記事に続き、3日目も明貝が記事を担当します！3日目は、ミャンマーの私立病院2か所を訪問しました。前日に訪問した公立病院との環境の差などから、日本ではあまり感じられない治療の格差が垣間見えるところがありましたが、私立病院なりの工夫や信念がありました。しかし、日本の衛生管理の徹底ぶり比べるとミャンマーの病院ではあまり徹底されておらず、環境やコストを考慮したその現地に合った医療体制・衛生環境があることを実感しました。

パンライン病院(私立病院) 志水仁美

インドネシアと共同資本の私立病院であるパンライン病院は、公立の病院に比べ、機器や施設が充実していました。この病院では貧しい人も裕福な人も同じ医療をそれぞれ満足に受けられるように、入院病棟のグレードで医療費に違いをつけたりすることで、同じ医師と医療サービスを受けることができるようなシステムを目指しているということを経験した方が話していました。医療保険がないミャンマーで、あらゆる人が医療において平等であるという視点をもって医療に携わる姿勢は素晴らしいと感じ、この病院では、私立病院の特性を生かして医療貢献している点が、非常に工夫されていると感じました。



Leo medicare(私立病院) 桑原真衣

こちらの病院の日本人医師の方は主に日本人患者を対応していましたが、お話によるとミャンマーの方も時々来院されるようです。私たちの見学中に訪れた患者さんは腹痛を訴えていましたが、速やかに治療室に案内されて診察を受けていました。その様子と前日の新ヤンゴン総合病院の様子などを踏まえ、多額の治療費を払えば高度な治療が受けられるシステムがあることを実感しました。

